



注 意

**新型コロナウイルス感染妊産婦
が急増しています。**

～ご家庭でできる感染対策とワクチン接種をご検討ください～

文責 渡邊理史

2022. 07. 25

オミクロン変異株 (BA.5) は非常に感染力が強いです。

現在 (2022年7月20日現在) ものすごいスピードで感染が拡大しています。

英国健康安全保障庁は6月24日に公表した報告書では、現在流行しているオミクロン株 (BA.5) は、これまで流行していたオミクロン株 (BA.2) よりも1.35倍速く感染が広がると推計しています。

そのため、家庭内感染や職場等の同じ空間内での感染が急増しています。

3密を避けるなど基本的な感染対策が重要です。

夏は冬に比べて屋外の空気が屋内に入りづらいため、こまめに窓を大きく開け、一定の時間換気をすることが重要です。

①換気の悪い 密閉空間



②多数が集まる 密集場所



③間近で会話や 発声をする 密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



妊娠中に感染すると赤ちゃんへの影響はありますか？

現時点では、風疹のような児の先天性障害や流産のリスクが高いとする報告はありません。しかし、中後期の感染では、早産(37週未満)のリスクが高く、新生児についてはNICU(新生児集中治療室)への入室を必要とする事例が多かったと報告されています。

	全体 n=418 〔人数 (%)〕	軽症・中等症Ⅰ n=349 〔人数 (%)〕	中等症Ⅱ・重症 n=69 〔人数 (%)〕	Fisher's exact test
早産	66 (15.8)	34 (10.2)	32 (46.4)	p<0.001
切迫流早産	21 (5.0)	13 (3.7)	8 (11.6)	p=0.012
胎児機能不全	15 (3.6)	10 (3.0)	5 (7.2)	p=0.151
流・死産	15 (3.6)	15 (4.3)	0	p=0.147
妊娠高血圧症候群	14 (3.3)	12 (3.6)	2 (2.9)	p>0.999
妊娠糖尿病	8 (1.9)	5 (1.4)	3 (4.3)	p=0.130
胎児発育不全	5 (1.2)	5 (1.5)	0	p=0.593
羊水過少	3 (0.7)	1 (0.3)	2 (2.9)	p=0.072
常位胎盤早期剝離	2 (0.5)	2 (0.6)	0	
他臓器障害	2	1 (肝腎)	1 (肺炎)	
CAM	2	1	1	

33

ワクチン接種は重症化を予防します

日本におけるCOVID-19妊婦の現状～妊婦レジストリの解析～約900名の新型コロナウイルス感染症妊婦において、**ワクチンを接種した方に重症となった妊婦はいませんでした。**

感染診断前のワクチン接種と中等症Ⅱ・重症のリスク

	全体 n=967 〔人数 (%)〕	軽症・中等症Ⅰ n=836 〔人数 (%)〕	中等症Ⅱ・重症 n=131 〔人数 (%)〕	Fisher's exact test
ワクチン歴不明	303 (31.3)	253 (30.3)	50 (38.1)	
接種無し	566 (58.5)	485 (58.0)	81 (61.8)	有意に減少しています p<0.001 RR 0.86 (95%CI 0.83~0.89)
1回以上接種*	95 (9.8)	95 (11.7)	0	
SARS-CoV-2 既往感染	3 (0.31)	3 (0.36)	0	

* SARS-CoV-2 既往感染（2回目以降の感染例）3例を含む

出典：日本におけるCOVID-19妊婦の現状～妊婦レジストリの解析結果を一部改

ワクチンは妊娠や赤ちゃんへ影響しますか？

妊娠中のワクチン接種による有害事象の上昇の報告はありません。

これまでの研究でワクチン接種を受けた妊婦やその新生児に対して有害事象の増加はなく、ワクチン接種を受けていない妊婦と比べて、流産、早産、新生児死亡の発生率に差はなかったと報告されています。また、副反応の頻度は妊娠していない女性と同程度でした。さらに、流産や死産、早産などの頻度は一般的な妊婦さんと比べて上昇しないことが報告されています。

また、妊娠中に接種したワクチンによってつくられた抗体は、臍帯を通じて胎児へ移行し、生まれた後に新生児を感染から守る効果が期待されます。

ワクチン接種による新型コロナウイルスの感染予防効果は、オミクロン株においても確認されています。



授乳中のワクチン接種は大丈夫ですか？

授乳中のワクチン接種は問題はありません。

新型コロナウイルスのワクチンの性質から、母乳移行量は非常に少なくなると考えられています。実際にワクチン接種後の母乳移行について調べた研究では、**母乳中には検出されなかったと報告されています**。また、授乳中の多くの赤ちゃんに問題はみられなかったとの報告もあります。

これらのことから、授乳中のワクチン接種は問題ないと考えられます。



ワクチンの副反応での解熱鎮痛薬の使用できますか？

妊娠中の場合、アセトアミノフェンは使用可能ですが、非ステロイド性抗炎症薬（イブプロフェン、ロキソプロフェン等）の妊娠後半期の使用は避けることが望ましいです。それは赤ちゃんの動脈管という血管に影響すると言われてています。

授乳中の場合、アセトアミノフェン、非ステロイド性抗炎症薬（イブプロフェン、ロキソプロフェン等）ともに安全に使用できると考えられます。



参 考

妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合は どうしたらよいですか？

まず、かかりつけ医(当院がかかりつけの場合には当院)にご連絡ください。

35歳以上、肥満(BMIで30以上)、喫煙者、高血圧・糖尿病・喘息などの基礎疾患を有している方は、重症化のリスクが高いことが報告されており、入院で経過をみる場合管理があります。また、妊娠36週以降の方は分娩準備のため入院で経過をみる場合があります。

入院が必要と判断された場合には保健所から連絡があります。

重症化のリスクが高い項目

- ・35歳以上
- ・肥満(BMIで30以上)
- ・喫煙者
- ・高血圧、糖尿病などの基礎疾患

妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合は どうしたらよいですか？

最寄りの検査協力医療機関に必ず電話予約して受診してください。高知県のホームページ(「高知県 新型コロナウイルス感染症 検査協力医療機関」で検索)に検査協力医療機関が掲載されています。**なお、当院は検査協力医療機関に該当しませんので、ご注意ください。**

高知県 Kochi Prefecture

Google 提供

分野から探す → 防災・安全・まちづくり 暮らし・環境 健康・福祉 教育・子育て 観光・文化・移住 しごと・産業

ホーム > 組織から探す > 健康政策部 > 健康対策課

県内の新型コロナウイルス感染症検査協力医療機関について

公開日 2022年07月12日

県民の皆さまへ

- 新型コロナウイルス感染症の症状は、発熱、呼吸器症状(咳嗽、咽頭痛、鼻汁、鼻閉など)、頭痛、倦怠感、下痢、嘔吐など多様です。
- こうした症状の方は、最寄りの検査協力医療機関又はかかりつけ医に **必ず電話予約して受診してください。**
- 受診の際は必ずマスクを着用するとともに、医療機関の指示に従ってください。

※ 保険診療による新型コロナウイルスの検査は、医師が新型コロナウイルス感染症を疑いと判断した場合にのみ可能です。「漠然とした不安がある」、「会社から陰性証明を求められた」といった場合は検査はできません。

検査協力医療機関について

- 必要な院内感染対策をし、「新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療」(例: 発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、下痢、嘔吐等に対する医療)と「それ以外の医療」(例: 持病等に対する定期的な医療)をしっかりと両立している医療機関です。
- 本ホームページで随時追加、更新します。

出典:高知県

最後に

オミクロン株(BA.5)は感染力が強いいため、定期的な室内の換気など、基本的な感染対策が重要です。

また、重症化の予防のため、妊娠中、授乳中、妊娠を計画中の方も、ワクチンの接種勧奨の対象となっており、時期を問わず接種をお勧めしています。

